

研修報告書 No.1

研修先： 田野病院

この度、臼井会 田野病院で一カ月間地域医療研修をさせて頂きました。

田野病院における地域医療研修は、地域包括ケアシステム全体を経験することができるよう工夫されたプログラムで、非常に学ぶことの多い研修となりました。

これまで大学病院で主に急性期医療について学んできましたが、それは患者が利用できる医療サービスのほんの一部でしかないということを実感しました。地域医療の全体像や患者の自宅での様子などを医師臨床研修の早い段階に経験することができ、より患者に寄り添った思考を身に着けることができたと感じております。私は将来開業して、地域医療に貢献したいと考えており、訪問診療にも興味があったため、訪問診療を含む訪問系サービスを経験することができた点も非常にありがたかったです。また、研修施設の設備も非常に整っており、特に不自由もなく研修に集中することができました。研修プログラムについて特に不満はなかったです。

さて、普段大阪府の大学病院で研修をしている県外在住医師から見た高知の地域医療の状況については、やはり医療資源の高知市一極集中を感じました。私が研修していた高知県東部の医療従事者は不足しており、また医療従事者の高齢化も進行しており、医療資源不足は深刻であると感じました。実際、新型コロナウイルスが高知県東部でも流行し始めた際には、大学病院などからの非常勤医師の供給がストップされてしまい、医師数が明らかに不足するような事態も見受けられました。医療従事者の不足を改善するには、医療従事者を増やす（高知県や地方で働くことに明確にメリットを設ける・意欲のある海外労働者を増やす・医療業務の一部を研修を受けた人物もできるようにする・患者自身の積極的な医療参加を促すなど）か、患者を減らすことで相対的に不足を軽減する（予防医学など）か、技術（ICT・介助ロボット・リフターなど）で人数不足を補うか、などの案が考えられますが、現場の方々のお話を伺っていると、いずれもハードルは高そうに感じました。視点を少し変えて、大学などの研究機関の研究対象に選んでもらうことで、お金や技術が集まり、現状を少し改善することができるかもしれないとも思いました。

今回の地域研修で得たものは、地域医療についての知識・経験と地域医療に対する問題意識です。特に後者の地域医療に対する問題意識を得られたことは大きかったです。

まず前者についてですが、前述したように大学病院の研修のみでは得ることができない知識・経験を得ることができました。例えば、医師の前では元気にふるまっている患者が、訪問リハビリの理学療法士には本音を打ち明けたり、医師の前では比較的無口な患者がケアマネジャーの前では不満をあらわにしたりなど、信頼度は同じでも相手の役職によって患者の態度が大きく変わるところを目の当たりにできたことは、いい経験となりました。次に

後者についてですが、これまで私は、そもそも地域医療に関心がなく、地域医療についての問題意識も生まれず、特に意見も持ち合わせていない、といった状態でした。ですが実際に高知県に来て、現場の苦勞を目の当たりにすることで、地域医療に対する問題意識が芽生え、社会全体で考えるべき問題であると感じました。私のように、地域医療に対する無関心から問題意識や意見を持っていないという医療従事者は多くいると思います。今回経験させていただいた地域医療研修のような形で、少しでも地域医療の現状を広めようとする活動には、非常に大きな意味があると感じました。この度は貴重な研修の場をご用意いただき誠にありがとうございました。